

カンボジア 工場労働者のための子宮頸がんを入口とした 女性のヘルスケア向上プロジェクト

Newsletter from SCGO-JSOG Project on Women's Health and Cervical Cancer

No. 13 November 2016

第 15 回 カンボジア産婦人科学会年次学術総会開催

11月18-19日に、カンボジア産婦人科学会が主催した「第15回カンボジア産婦人科学会年次総会」が、保健省エンホット事務次官ご臨席のもと、プノンペンにて開催されました。テーマは「早産」。参加者は約300人で、カンボジア産婦人科学会（地方からは約100名の参加）のみならず、FIGO、カンボジア小児科学会、保健省、NGOからも参加がありました。

JSOG 藤井理事長が開会挨拶と基調講演(Why Premature labor occurs and how to manage?)を行いました。藤井理事長や外国人の発表に対して、カンボジア人学会員から多数の質疑がありました。

また、当プロジェクト対象の3国立病院における早産に関する調査(厚労省予算)は、SCGOのスン理事を中心に、カンボジア国立公衆衛生院の研究者と共同で行い、スン理事が学会で発表し、多くの関心を集めました。



「カンボジア医療支援事業と学会の国際化」

2016年11月18日-19日に、プノンペンで開催された15th symposium of Cambodian Society of Gynecology and Obstetrics (SCGO)で講演し、日産婦学会とJICAが協力して行っている「子宮頸がん検診プロジェクト」につきSCGOと打ち合わせを行い、また、カンボジア保健省を訪問し、プロジェクト進捗状況の説明と今後の許可を頂いて参りました。

カンボジアに行って驚いたのは、国民の平均年齢が24-25歳ということです。このことは、この国の将来が期待できるということを意味しますが、一方で、約40年前に起きた悲劇により、医師がほとんどいなくなった状態から立ち上がってきたため、医療の状況は未だ深刻な状況です。単に医療者の数や施設・設備が不足しているだけでなく、医療の根幹が回復していません。しかし、学会に参加している現地の医師たちは非常に熱心で、自分の症例に関する具体的な質問が、時間制限なく、多数出されました。

日産婦学会が主導して、この国の医療支援に乗り出したわけですが、こうしたことは前例がありません。私たちは学会の国際化を目指しており、学術集会の英語発表を増やすだけでなく、途上国の医療支援を若い医師たちも参加して行っていくことが、途上国の熱気を知る上でも、極めて重要だと感じました。



日本産科婦人科学会員の医師による実地指導

11月15～23日の間、日本大学より川名敬医師と東裕福医師が派遣され、プロジェクト対象のクメールソビエト病院、カルメット病院、国立母子保健センター病院でコルポスコピーの技術指導、患者登録の指導、子宮頸がんスクリーニングの実施手法の検討、提言などの活動を行いました。

また、エンホット次官への表敬訪問やカンボジア産科婦人科学会員対象のミニセミナーを開催しました。

日本大学医学部産婦人科学系産婦人科学分野
東 裕福 川名 敬

我々に課せられたミッションは三つありました。それは①現地医師のコルポスコピー検査のスキルアップ指導。②患者のレジストレーションの進捗状況のチェック。③工場労働者の子宮頸癌スクリーニングを導入するにあたってどのような形式で導入するか。の提案と最終的にはその提案をカンボジア産科婦人科学会およびカンボジア政府に承認してもらうことでした。

1. コルポスコピーのスキルアップについて

個々の病院、あるいは医師個人間において若干のスキルレベルの差はあるものの、全体的にはコルポスコピー、パンチバイオプシーのスキルは若手医師においてはどの病院でもレベルが向上しており、日本の一般的なコルポ診にかなり近いレベルでした。これまでの派遣団の先生方のご指導のおかげであると感じました。しかしながら一部の医師（特に年配の上級医）ではコルポスコピー検査のスキルよりも検査に対する認識自体が希薄な印象がありました。

2. 精密検査のレジストレーション管理について

レジストレーションのコンピューター化は、クメール・ソヴィエト病院だけがほぼ稼働している状態でした。慶応大学の山上先生が作ってくださったエクセル台帳をしっかりと活用し、フォローアップ患者のサーチおよび集計することができる状態でした。他の2つの病院は未だ紙ベースで、導入することに敷居が高く、若手はやる気があっても上層部の理解がやや足りない（レジストレーションの許可が出ず、PCを使わせてくれないとのこと）印象でした。

3. スクリーニング方法の改定について

プロジェクトでは、visual inspection with acetic acid; VIA による子宮頸がんスクリーニングを検討していましたが、VIA よりも HPV でのスクリーニングの有用性について SCGO メンバーに説明をし、さらに HPV テストに対応した工場検診受診者への説明内容、HPV テストをベースとした検診フローチャートを提示しました。このミーティングにおいて、SCGO は、本プロジェクトにおける HPV テスト導入を決定し、パイロットして工場検診で導入することが決まりました。また藤井 JSOG 理事長、カナル先生（SCGO 理事長）とともにカンボジア保健省のエンホット事務次官に HPV テストによる子宮頸がんスクリーニングを試験的に工場で開始することを説明し、承諾を得ました。

○今回の派遣のまとめ

カンボジアの医療情勢を踏まえると、HPV テストのスクリーニングが子宮頸がんスクリーニングを通じた女性ヘルスケアの向上に最も簡便かつ精度が高く、実行可能であると考えられました。カンボジア側もその重要性を認識し、工場検診におけるスクリーニング方法について、VIA から HPV テスト（QIAGEN 社：HCII：HR-HPV 検出）に変更することが決定されました（1検体 5 USD の途上国価格）。HPV テストの機械は既に1つの病院で稼働しており、検査の質・結果管理は担保できるものの、JICA や日本産科婦人科学会からの継続的な支援は不可欠であるとともに関係各機関、さらには他の関連学会と連携して取り組んでいく必要があると考えました。



(写真) 病院医局でのディスカッション



(写真) ラボでの視察・技術指導



(写真) ミニレクチャー風景



(写真) 感謝状授与式



(写真) 感謝状授与式後の集合写真

〇おわりに

11月のカンボジアは乾季で、比較的過ごしやすいベストシーズンとのことでしたが、連日35度近い猛暑で、真夏に逆戻りしたような感覚でした(尚、両名が帰国した翌日の東京では観測史上54年ぶりの11月の初雪が降りました)。

カンボジアは後進国という先入観が強かったせいか、高層ビルが建ちはじめ、建設ラッシュであるという光景には驚きました。また全人口の約40%は18歳未満である反面、平均寿命が男女ともに60歳前後ということを知り非常に驚きました。JICAをはじめとした日本の支援が重要であり、また今後の発展が期待される国の一つであることを感じました。

今回の派遣に際し、二人ともに一度も体調を崩すことなく(東南アジアでは飲み水だけでなく“氷”も危ないとのことだったので、これを徹底したためでしょうか)無事に8日間の日程を終えることができました。派遣中にカンボジア産婦人科学会年次総会が開催されたため、他の派遣チームよりも1日長い日程でしたが、充実した毎日を過ごせました。

全体を通じて感じたこととしては、現地医師のスキルアップ、意識改革がされつつあり、本プロジェクトが着実に前進していることです。すべてカンボジア派遣、もしくは現地医師の日本での研修に携わった諸先生方の努力の賜物であると思いました。

また今回、このような貴重な経験と国際貢献ができ、大変うれしく思いました。そしてこのような機会を賜りましたJICAはじめ日本産科婦人科学会にも感謝申し上げます。さらに現地でいろいろとコーディネートして下さった国際医療センター藤田先生、JSOGカンボジア支部員の野中さんに感謝申し上げます。

第5回プロジェクト理事会の開催

11月17日に、SCGOの理事、カンボジア国立3病院の実戦部隊の医師、JSOGからは藤井理事長、日大川名医師、東医師、藤田医師の参加により第5回のプロジェクト理事会が開催されました。

まず、工場での進捗報告(6-7月、8-9月の健康教育教材作成、8月SUMIカンボジアでの健康教育実施(約700名参加)、9月経済特区での当プロジェクトの報告説明会実施等)が行われました。

続いて、コルポ・細胞診・病理検査数と内訳発表等の病院での進捗報告が行われました。

その後、9月から10月に日本で研修を受けましたカンボジア人医師から日本での研修報告が行われ、理事会参加者と情報を共有しました。

また、カナル学会長より、VIAとHPVテストの検診における感受性・特異性の説明が行われ、SCGOとして、「工場検診はVIAではなくHPVテスト実施」で合意しました。

最後に、2017年の活動計画が発表され、藤田医師からJSOGからの投入計画案に関して発表がありました。

まとめとしまして、藤井理事長から、プロジェクトがとても順調に進んでいることへの高い評価、また、次のステップとして、これまでの活動を元にどのように拡大していくかを考え始めなければいけない、と提言がありました。



保健省エンホット事務次官表敬

11月17日、藤井理事長、カナル学会長、川名医師、東医師、藤田医師が、カンボジア保健省エンホット事務次官を表敬訪問しました。

カナル学会長から、これまでのプロジェクトの工場や3病院での活動進捗について報告、および今後の工場検診でのHPVテストの有用性について説明しました。

エンホット事務次官は、HPVワクチンと平行して子宮頸がん検診を進める重要性に言及され、HPVテストが安価になり、人々がアクセスしやすくなったのであれば、当プロジェクトでのHPVテスト実施に合意することが表明されました。

プロジェクトを取り巻く動き

- 11/1 : カンボジア人プロジェクト理事および実戦部隊医師合同会議
- 11/10 : SCGO 理事会
- 11/15-22 : 藤田則子医師カンボジア派遣
- 11/15-22 : 日本大学より川名敬医師、東裕福医師カンボジア派遣
- 11/16-20 : 藤井知行学会理事長カンボジア派遣
- 11/17 : 第5回プロジェクト運営会議
- 11/18,19 : 第15回カンボジア産婦人科学会年次総会
- 11/29 : SCGO 理事会